

第1表 外部標準検体による精度管理結果

3カ月ごとの異常検体見逃しの回数

月 エラー回数	53年			54年			55年	
	2-4	5-7	8-10	11-1	2-4	5-7	8-10	11-1
0	23	32	37	45	46	42	45	46
1	10	11	10	8	5	7	7	7
2	7	5	2	0	2	3	0	0
3	0	2	2	0	0	0	1	0
4	3	0	0	0	0	1	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0
センター数	44	50	51	53	53	53	53	53

代謝異常スクリーニング技術の改良

国立神経センター 成 瀬 浩  
 石 井 澄 和  
 鶴 田 恵 美 子  
 渡 辺 倫 子

千葉県予防衛生協会 吉 田 篤 子  
 田 所 雄 次

1) ガラクトース血症スクリーニング法の改良

昨年度、藤村法によるガラクトース定量法の自動化を報告したが、今後は、ガラクトース-1-リン酸の自動化も完成し、テクニコンオートアナライザーの使用により、自動的にスクリーニングが行える様になった。

浜紙血中のガラクトースを測定する方法としてペイゲンフェージ法が使用されているが、この方法は、時に判定が容易でないために、実用化の場合の障害となっていた。このペイゲン法を実施する折に、培地中に乳糖とトリフェニールテトラゾリウムクロライドを加えることにより、極めて判定しやすくなることがわかった。われわれは、これをペイゲン-吉田法と称し使用中である。今後ガラクトース血症のスクリーニングとしては、ポイトラー法と共に、ペイゲン-吉田法

か藤村法を加えるべきであろう。

またわれわれは、涙紙血中にガラクトースあるいはガラクトース-1-リン酸の軽度増加のあるときには、国立精神衛生研究所小松博士に依頼し、ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼのアイソザイムの判定を行っており、今年度に1例のバリエーションを発見した。

## 2) アミノ酸代謝異常スクリーニング技術の改善

マススクリーニングの普及とともに、涙紙血中のアミノ酸の正確な定量が行なわれるようになって来た。昨年度われわれは、3mmディスク中の金アミノ酸の定量法を確立したが、その後の研究により、溶血により急速にアルギニンが減少し、グルタミン酸、メチオニンは増加することを発見した。これらのアミノ酸の定量のためには、涙紙血は不適當と思われる。尚アミノ酸代謝異常に関しては、従来のアミノ酸測定と共に、アミンの定量、安定同位元素導入によるアミノ酸代謝率の測定が不可決になって来たので、目下これらについての研究を継続している。

## 産婦人科側から見たガスリー法等の実施状況と問題点

社団法人 日本母性保護医協会	森 山	豊
	五味 淵 政 人	
	皆 川	進
	黒 島 淳 子	
	住 吉 好 雄	

日本母性保護医師会は、昭和52年4月から昭和54年3月までの2年間におけるガスリー法等の実施状況、患者数などにつき、全国47支部からの調査の集計を行った。

### 1. 検査実施件数(受診者数)

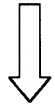
昭和52年4月から12月まで430,424人、昭和53年1月から12月まで1,149,542人、昭和54年1月から3月まで188,747人、合計1,768,713人の新生児が実施していた。

### 2. 検査実施率

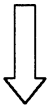
昭和53年1月から12月までの各支部の新生児出生数と検査実施数から実施率を求めると実施率50%台の支部は6支部、出生数を上まわる実施率を示す支部は4支部であり、全国平均79.4%であった。

### 3. 患者数

各支部から集計した患児数は合計262人であった。(表参照)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



- 1)ガラクトース血症スクリーニング法の改良
- 2)アミノ酸代謝異常スクリーニング技術の改善